

奥田カメラ、チノンと業務提携 防犯カメラを生産、販売へ

地域のカメラ販売会社・奥田カメラ商会(横川町一丁目一〇一、資本金七〇万円、奥田清社長)と国内大手8ミルカメラメーカーのチノン(本社・長野県諏訪市、資本金一億二千万円、茅野弘社長)が共同で超低価格防犯カメラの第一号機を開発、このほど製品名を「チノン・サーベランス80C-1」に決定するとともに、4月末にはサンプル三〇台を生産、早ければこし6月上旬にもチノン商事(東京)との共同出資会社「チノン・サーベランス販売(株)」(本社東京、奥田耕造社長、奥田カメラ専務、資本金二〇〇〇万円予定)に仮称IIを設立のはこびである。

今回のカメラは既存の商品に比べ十分の一の低価格(本体七万五〇〇〇円)で性能もレベルアップされているのが特徴。具体的には①五倍のズーム(F1.2)をセットしている②水平角度が8〜39度と広い③一秒に九コマ連続撮影ができる④露出やフィルム感度調整を自動化⑤ワイヤレス使用のリモートコントロール機能を備えた⑥などが、さらにフィルムも既存のカメラだと特殊マガジン使用だったのに、一般市販のフィルムで充分間に合い、カラーポジのため印刷紙に焼付ける必要もない。

「県内の発売元は奥田カメラが一手で行うが、高級一眼レフより安いため金融機関からも評判がよく、県内の銀行だけで三〇〇〇台以上は出そうだ」

としてい。国内の防犯カメラ販売業者はミノルタ、富士精工、総合警備保障、クマヒラ、ロボットがあるが、今回のように地方カメラ販売会社とメーカーの共同開発は全国でも特殊なケースとして注目されており奥田カメラはチノンのアマチュア製品販売実績で全国第五位にあるなどチノンとの深い関係が共同開発の背景となっている。



初の2×4工法住宅展

8社が高陽ニユーで開催

住宅展の開催が相次いでいる中でこんどは広島で初めて「ツーバイフォー住宅展」が高陽ニユータウンを舞台に開催されることになった。

広島県ツーバイフォー建築協会に加盟する一八社のうち三井ホーム、積水ハウス、岩谷産業、プレックホーム、広電建設、小野産業、マツダ興産、東洋建物の八社が九棟建設し

2×4工法の良さを売り込む。いまのところ開催日は5月26日から同ニユータウンで在来工法業者とプレハブ各社が開く住宅フェアに相乗りした形に持っていく方向で検討されている。

満津井跡に 野村不動産が西屋敷マンション 四丁目二二三九の料亭を買収、分譲マンションを建設する。四階建延一〇二〇平方、一六戸の規模で工期は6月から来年1月まで全戸公庫融資付きの計画だが、分譲価格は二〇〇〇万円以下に落着く見通しだ。